

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教科	地理歴史	科目	世界史A	学年	2	類型	商業科
単位数	2単位	教科書	明解 世界史A	出版社	帝国書院		
副教材							

学習の目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、現代の諸課題を歴史的観点から考察し、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身に付ける。
授業の概要	近現代史を中心に世界の歴史を学習し、現在の世界がどのようにして成立したかを理解し、様々な視点を持つことによって、我々を取り巻く諸課題を考察する。

	期	単元	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
年間 学習 計画 画	1 学期	第1章 前近代の諸文明	1 東アジアの文明 2 南アジアの文明 3 東南アジア 4 西アジア・北アフリカの文明 5 ヨーロッパの文明 6 南北アメリカの文明 7 ユーラシアの交流圏	○	○	○	○
	2 学期	第2章 一体化に向かう世界 第3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺	1 繁栄するアジア 2 大航海時代と新たな国家の形成 1 ヨーロッパとアメリカの諸革命 2 自由主義・ナショナリズムの進展 3 アジア諸国の動揺 4 東アジアの大変動	○	○	○	○
	3 学期	第4章 現代社会の芽生えと世界大戦 第5章 冷戦から地球社会へ	1 現在につながる社会の形成 2 第一次世界大戦がもたらしたもの 3 "民族自決"を求めて 4 経済危機から第二次世界大戦へ 1 冷たい戦争の時代 2 冷戦終結への道のり 3 地球社会への歩み 4 持続可能な社会を目指して	○	○	○	○

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①	②	③	④
近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	近現代史を中心とする世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法			
学習状況は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用の技能」「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、「出席状況」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「提出物（レポートやノート）」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。			